

ムカデ

校長 稲葉 守朗

西校舎の児童・生徒は、5月28日（土）の運動会に向けて毎日練習に励んでいます。東校舎の運動会は、1週間後の6月4日（土）ですが、すでに、学年ごとに表現の練習が始まりました。今年度も、東西別れての別日開催となりますが、今回は、感染症予防対策を講じた上で、保護者の皆様に参観していただく形式にしました。ご理解、ご協力をお願いいたします。

中学生の学年種目は、9年生はムカデ競争、8年生は大縄跳び、7年生は台風の目です。どの学年も「チームの協力」が欠かせない種目となっています。

今回は、9年生にとって最後の運動会であることから、ムカデ競争に焦点を当てて書かせていただきます。予行練習の合間に、ムカデ競争のリーダーに、競技にかける意気込みを聞きました。Aさんは、「仲間と息を合わせ、心と体を一体化し、9年間積み上げてきたものを、このムカデ競争で表したい。」と話していました。ムカデ競争の練習が始まった当初は、足が合わずに数歩進むと転んでしまう状態でした。しかし、生徒同士で、並び順やリズムを工夫しながら練習を重ねたことにより、チーム力が大いに向上しました。2本の紐で結ばれたムカデのような状態で上手に走るには、強いリーダーシップのもと、仲間を思いやる気持ちや、柔軟な判断力をもって行動することが大切です。ムカデ競争は、Aさんの言うとおり、これまで積み上げてきた9年間の集大成です。運動会当日は、どのようなドラマが繰り広げられるのか楽しみです。

さて、ムカデ競争のムカデ（百足）について、興味のある話がいくつかありましたので、紹介させていただきます。

第一に、軍神と財宝の神であるムカデは、「毘沙門天」の使いとされています。武田信玄や上杉謙信などの戦国武将は、毘沙門天が武神で戦勝の神とされることから必勝祈願、武運長久を祈願していたと言われています。また、ムカデは、一糸乱れず果敢に素早く前に進み、決して後ろへ退かないなどとして、武具甲冑や旗指物にムカデの図が用いられたそうです。

第二に、奈良の信貴山寺の本堂には、「毘沙門天王」と書かれた大きな額がかかっています。その額の飾りが二匹の大きなムカデです。信貴山寺のお坊さんは、「ムカデは、百本の足を動かして、走って行く。百本が同時に同じように動く。しかも、1本たりとも他の足の邪魔をしない。他の足に迷惑をかけないで、みんなが仲良く、自由自在に動いている。すばらしいことです。」と話していました。

これまでの運動会の練習を通して、学校行事のすばらしさを再認識しています。本学園がこれまで培ってきた伝統は、新型コロナウイルスのまん延により一時的に途切れてしまいましたが、9年生を中心に新たな伝統が作られていることを実感しています。7年生から9年生男子によるボディークラップ・演舞、そして、7年生から9年生女子による創作ダンスは、新たなチャレンジです。また、5、6年生の南中ソーランも一段と気合いが入り盛り上がってきました。さらに、5年生から9年生の選抜で行う男女混合学園リレーは、最後の練習に励んでいます。「百花繚乱～伝統絶やさず己の力を見せつける～」のスローガンのとおり、一人一人の力を全力で発揮することを信じています。児童・生徒の活躍に、乞うご期待ください。